

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	北原 沙友里
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation)			
惟明親王歌の研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	妹尾 好信	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	久保田 啓一	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	溝渕 園子	
審査委員 (Name of the Committee Member)	名誉教授	山崎 桂子 (志學館大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>惟明親王 (1179～1221) は、高倉天皇の第三皇子で後鳥羽院の異母兄にあたる。本論文は、後鳥羽院主催の2つの百首歌『正治初度百首』と『千五百番歌合』に詠進しているながら、院や俊成、定家ら著名な歌人の陰に隠れて、これまで研究者からほとんど顧みられなかった惟明親王の和歌事績にはじめて本格的な研究の光をあてた意欲的な論考である。</p> <p>全体は、序章、2部5章の本論、終章から成る。 序章では、惟明親王研究の現状と課題を述べ、本研究の意義を明確にする。 第I部は、正治2年(1200)に成立した『正治初度百首』の百首歌を取り上げ、特に配列と構成意識について詳細な検討を加える。 第一章では、四季部に関して、3節に分けてそれぞれ春部、秋部、夏・冬部の構成を論じる。四季部全体を通じて、『堀河百首』などに比して題材が限定的であり、類似した表現を繰り返しているような欠点はあるものの、春歌で風に薫る桜の香を詠んだり、秋歌で「おきみの里」という珍しい歌枕を詠むことで月夜を表現したり、冬歌で「止まらぬひを(氷魚・日を)」の掛詞で歳暮の情を表したりと、斬新な表現方法が随所に見られることを指摘する。また、部立末尾の歌と次の部立の最初の歌との間に表現上の連続性があることにも注目した。 第二章では、恋部を扱う。恋愛の展開に従って配列するという伝統的枠組を踏襲しつつ、「不逢恋」「待恋」「逢不逢恋」の歌群を同じ詞や類似表現で連結させる独自の方法をとっていることを明らかにした。恋部末尾の歌は続く羈旅部冒頭の歌と連続性を持ち、ここでも部立間の連結を図る表現上の工夫があると指摘する。 第三章では、羈旅、山家、鳥、祝から成る雑部を取り上げ、4節に分けて考察を加える。羈旅では旅の辛苦に主題を統一し、続く山家では統一せず変化を重視して詠む、鳥では珍しい鳥を詠んで新鮮味を出す一方で晩秋から冬のうらみしい情緒でまとめているとする。祝では視覚的なイメージを重んじる中でも、満天の星を詠んで「君が代」の永続性を言祝ぐ歌に発想の斬新さがあると指摘する。</p> <p>第II部は、『正治初度百首』の数年後に編まれた『千五百番歌合』所収百首を考察の対象とする。歌合の形式に改編されているため百首歌としての配列や構成は知られないので、ここでは先</p>			

行歌撰取の様相と、歌合判詞に見える同時代人の評価という2つの観点から惟明親王の詠作方法を明らかにすることを試みている。

第四章では、「古歌撰取の様相」と「近時代・同時代歌撰取の様相」の2節に分けて、惟明親王歌の先行歌撰取のあり方を論じる。古歌撰取にはやや稚拙さが目につくが、近接した時代の詠歌の利用には独自性が認められるという。

第五章では、具体性の高い判詞がある春歌と恋歌について、評価されている点を検討することで、詠作方法の特性を考察している。春歌では先行歌や典拠を踏まえつつ新しい表現を見出した歌が、恋歌では一首のまとまりがよい歌や本歌取りに成功している歌が高い評価を得ているとする。

終章では、これまでの考察を通じて得られた惟明親王歌の再評価を示し、今後の研究への展望を述べている。

このように、本論文は、惟明親王という皇族歌人が残した和歌史上の足跡を、作品の丹念な分析を通してはじめて総合的に意味づけたところに大きな意義がある。百首全歌を逐一検討しながら論じた『正治初度百首』に比べて『千五百番歌合』では一部の歌しか取り上げられず、やや粗い考察になってしまった点が惜しまれるが、惟明親王の和歌詠作上の基本的な姿勢と方法を解明し得た点は高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)